

大館の歴史散歩

山田越え

峠・坂
里の道 ④



大館市の西北部花岡町と北秋田郡田代町の境となっている山脈の沢づたいに「花岡越え」という「沢道」がある。この道を、田代町の人たちは「花岡越え」、花岡町の人たちは「山田越え」と呼び、古くは、山田村と花岡村の住民が、人的交流や経済交流、信仰道として山越えに利用した峠道である。今回は、花岡鉾山が隆盛の頃に

発達した「山田越え」について述べてみよう。この峠道は、花岡町桜町から鉾山露天掘跡、滝ノ沢温泉近くを通り、滝ノ沢沈殿池西側斜面を登り、田代町山田の杉ノ沢へと連絡する。北の萱刈山（花岡富士）と南の大山に挟まれ、道幅三尺（約一メートル）程でつづら折りの雑木林に囲まれた峠道であった。今では、この道を利用する人もなく草木が繁茂し、その存在を確認することも難しくなっているが、花岡鉾山が最盛期（昭和十九年頃、従業員約四千三百人）には、芝居小屋「共楽館」や、鉾山病院、生活物資を販売する購買供給所、飲食店などが立ち並び、古い写真には、横俵を背負った人々が往来する様子が見られ、一大商店街を形成した消費地であった。特に鉾山の市日には、近郷近在にある町村民の行商も多く、田代町山田からも農作物、薪炭などの行商や、花岡町から生活物資を購入のために往来する人が多く、花岡と山田を結ぶ生活道路として重要な峠道であった。また、近くには花岡町の採草地や、三途の川の「賽の

手前が滝の沢沈殿池
中央の鞍部が山田越え



手前が滝の沢沈殿池
中央の鞍部が山田越え

河原」もあり、当時の花岡町の人たちは信仰道としても利用したのもと思われる。今は、鉾山が縮小されて、多くの社員と家族が生活をした緑園の社宅や鉾山の建物も解体され、当時の面影を見ることはできないが、峠の頂上にたえず、往時の花岡の隆盛と人物往来を回顧することも、残された鉾山人の夢かと思う。市役所史跡探訪会

◆市民文化会館主催事業◆

劇団「俳優座」公演
去年の夏・チュリームスクで

とき・7月29日(水) 午後6時30分開演
ところ・市民文化会館大ホール

出演・加藤剛、中谷一郎ほか

入場料・S席 3,000円

A席 2,500円

B席 2,000円

とき・8月8日(土)

一回目・午後1時

二回目・午後6時30分開演

ところ・市民文化会館大ホール

入場料・A席 2,000円

B席 1,500円



チケットは下記プレイガイドでお求めください。

秋田県・甘肅省友好提携5周年記念
中国・甘肅省雑技団公演

私の本棚

「写楽 仮名の悲劇」
梅原 猛著
(新潮社)

写楽は誰か——謎の浮世絵師をめぐる新説を打ち出した一冊。当時の歌舞伎の状況や江戸文化に注目しつつ、同時代の浮世絵師・歌川豊国こそ写楽だったとする。



一般書

- ◇犬が育てた猫 (吉行淳之介) ◇私の植物散歩 (木村陽二郎) ◇覇道をゆく (木村勝美) ◇千代蔵一代 (田山力蔵) ◇サラダ記念日 (俵万智) ◇東京ブチブチ日記 (東海林さだお) ◇セラミックを考える (素木洋一) ◇レパントの海戦 (塩野七生) ◇シンボールの大学ノート (南伸坊) ◇武田信玄を歩く (土橋治重) ほか

児童書

- ◇あいうえおんどりこけこっこう (よしだてい) ◇燃える海山 (川村たかし) ◇トントン物語 (角川書店) ◇日本のおぼけ話・わらい話全10巻 (岩崎書店)

◆7月のテーマ関連図書コーナーは「不思議なこと」です。

◆親子読み聞かせ会は毎週金曜日 午後2時30分

◆中央図書館の休館日は7月19、23日、8月16、27日

◆プレイガイド 市民文化会館、秋北バス本社観光案内所 (1丁目)、秋北バスターミナル旅行案内所、いとくショッピングセンター、又久書店 (大町)、大森商店 (花岡)、阿部履物店 (十二所)、正札竹村